

NIFAアクションプラン2018→2022	全体 頁中の 頁
1. 現状の概要と今後の方向性	地区協会 委員会 クラブユースサッカー連盟
<p>【普及】近年の少子化傾向はますます加速している。新潟県における2種年代、3種年代の人口の推移について検証すると、2種年代は2015年が66,632人であったのが2018年は62,453人、3種年代は2015年が61,564人であったのが2018年は57,518人と人口の減少は顕著である。クラブユースサッカー連盟登録チーム数は2種年代は横ばいであるが、3種年代のチーム数は微増しており、選手登録数も増加傾向にある。その要因は、中学校体育連盟のチーム数の減少が考えられるが、各クラブチームの指導者、運営努力の成果ともいえる。NPOなどの法人化するチームも増えてきており、指導者のレベルの向上、クラブ運営の資質の向上が期待される。</p> <p>【強化】北信越大会を突破し、クラブユース選手権、高円宮杯などの全国大会に出場することができ、また全国大会でも着実に上位に進出するチームも増えてきた。またフットサルにおいては2種年代、3種年代とも毎年全国大会の優勝を争うことができている。各年代の野本代表やナショナルトレセンに参加する選手も増加している。【今後の方向性】法人化のクラブは増えてきており、今後もこの傾向は続いていくと考えられる。また少子化傾向の対応として、地域や行政との連携を図り、地域に愛されるクラブを目指すことで、クラブ、指導者、スタッフの質の向上、サッカーファミリーの拡大につながると考えられる。</p>	

NIFAアクションプラン2018→2022	全体 頁中の 頁
2. 中期目標（2030年）	地区協会 委員会 クラブユースサッカー連盟
<p>①選手登録数 U-15年代→→2,000人に近づける。/U-18年代→→→チーム数の1チーム以上増加させ、選手人数も80人に近づける。</p> <p>②法人化したクラブが全体の40%以上で占めるクラブユース連盟となる。同時に保護者及びOB・地域の人たちの参加機会の確保。</p> <p>③普及 リーグ戦の強化。県リーグ及び地区リーグを活用し、レベルに合わせた試合環境を整備する。</p> <p>④強化 北信越大会を突破し常時全国大会への出場し、全ての大会でベスト4以上を目指す。</p> <p>⑤マナーの強化 ウェルフェアオフィサーの拡大を図り、サッカーに関わる人たちが試合時、試合以外にもルールや社会秩序を守ることができるようにする。</p>	

NIFAアクションプラン2018→2022	全体 頁中の 頁
3. 長期目標（2050年）	地区協会 委員会 クラブユースサッカー連盟
<p>①選手登録数 U-15年代→→→2,200人に近づける。/U-18年代→→→チーム数の5チーム以上増加させ、選手人数も200人に近づける。女子選手を全体の10%にする。</p> <p>②法人化したクラブが全体の60%以上で占めるクラブユース連盟となり、地域全体で年代の枠を超えたクラブチームの応援ができる。</p> <p>③普及 クラブチームは、全て県リーグで対戦している。ホームアンドアウェイの試合ができている。</p> <p>④強化 新潟県代表チームが各種全国大会で優勝できる力があり、常に同大会で決勝トーナメントで活躍できる実力を持っている。</p> <p>⑤マナーの強化 中間目標を引き続き継続する。</p>	

NIFAアクションプラン2018→2022				全体 頁中の 頁	
4. 現状分析				地区協会 委員会 クラブユースサッカー連盟	
No. と 事項	2022年具体的目標	2018年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策
1. 普及	U-15→2,000人 U-18→80人	U-15→1,687人 U-18→45人	80%	1 新潟県下越地区及び上越地区でのチームの発掘と育成。 2 3種で登録した選手を2種へ引き継ぎ 3 4種で登録した選手を3種へ引き継ぎ 4 クラブチーム法人化への環境づくり 5 保護者及びOB・地域の人たちへの参加機会の確保と情報の発信 6 指導者・審判員の不足解消 7 7. 中体連との連携 8 女子選手へのアプローチが少ない 9 休止・解散のチームが植えてある	1 クラブユース連盟として、チーム立ち上げのサポート 2 ①クラブユース連盟と高体連の連携 ②高校以外の受け皿の可能性を作り出す 3 4種指導者との連携 4 クラブマネージャーズセミナー等の活用 5 ①リーグ戦運営をチームだけでなく地域の行事として定着させる ②ホームページの開設 ③SNSの開設(チーム情報) 6 クラブユース連盟で指導者講習会 審判講習会の実施 7 中体連指導者と連携し、協力しあう 8 女子選手が活動できる場を提供 9 合同チームでの大会参加の推奨
2. 強化	○高円宮杯U-18プレミアリーグ昇格 ○高円宮杯U-15北信越リーグにて常に優勝争いをし、全国大会にてベスト4に入る ○日本クラブユース選手権(U-18)にて常に決勝トーナメントに進みベスト8にはいる ○日本クラブユース選手権(U-15)にてベスト8に入る ○Jユースカップにて常にベスト4以上 ○全日本ユース(U-18)フットサルにてつねに決勝進出 ○全日本ユース(U-15)フットサルにて新潟県クラブユース連盟所属チーム同士での決勝を行う	○高円宮杯U-18プリンスリーグ2位 ○高円宮杯U-15北信越リーグに4チーム。全国大会に1チーム出場 ○日本クラブユース選手権(U-18)全国大会予選リーグ敗退 ○日本クラブユース選手権(U-15)北信越大会で敗退 ○Jユースカップ 全国ベスト4 ○全日本ユース(U-18)フットサル大会にて優勝 ○全日本ユース(U-15)フットサル大会にて準優勝	60%	1 リーグ文化が定着していない。 2 クラブユース連盟所属の選手が年代別代表に定着していない。	1 ①トップレベルを見据えたリーグでの拮抗した試合の構築・指導者のレベルアップするための機会の確保 ②指導者のレベルアップするための機会の確保 2 トップレベルで活躍できる選手育成を再考し、構築する
3. 規律	ウェルフェアオフィサーの導入	ウェルフェアオフィサーを全公式戦にて配備し、指導者のレベル向上を図る。	70%	指導者による審判、選手への暴言がまだ時々であることがある。	ウェルフェアオフィサーの助言などを基に、当事者と指導のあり方について再認識させる。
事項番号と見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2022年目標に向けての2018年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

NIFAアクションプラン2018→2022					全体	頁中の	頁
5. 具体的アクション					委員会 クラブユースサッカー連盟 地区協会		
No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように		
1-1	クラブユース サッカー連盟	2019～2022	下越・上越地区	新チームの立ち上げ	クラブユース連盟が サポートする		
1-2	3種クラブ 2種チーム	2019～2022	全県対象	2種との連携	体験会交流 練習試合交流		
1-3	3種クラブ 4種チーム	2019～2022	全県対象	4種との連携	体験会交流 練習試合交流 指導者派遣		
1-4	クラブユース サッカー連盟	2019～2022	全県対象	情報の共有	日本クラブユース連盟が 行っているクラブマネー ジャーセミナー等の積極的 な参加		
1-5	クラブユース サッカー連盟	2019～2022	全県対象	クラブユース連盟主催の 大会において	クラブユースサッカー連盟 主催の指導者および審判 講習会等の参加促進		
1-6	クラブユース サッカー連盟	2019～2022	全県対象	指導者・審判員のレベル 向上を積極的に図る	クラブユースサッカー連盟 主催の指導者講習会・審判 講習会を開催する。		
1-7	クラブユース サッカー連盟	2019～2022	全県対象	クラブユース指導者と 中体連指導者の連携	クラブユースサッカー連盟 、中体連の協力関係を築く ために、選手の情報を共有 できるような仕組みを作る ※スムーズな移籍など		
1-8	クラブユース サッカー連盟	2019～2022	全県対象	女子活動が活動できる場所 を増やす	クラブユースサッカー連盟 所属クラブにて女子選手を 受け入れる		
1-9	クラブユース サッカー連盟	2019～2022	全県対象	登録選手数の少ないチーム の把握・現状確認	合同チーム参加可能な 大会、交流戦の開催		
2	クラブユース サッカー連盟	2019～2022	全チーム	北信越リーグ・トップリーグ のチームの日程を工夫する	北信越リーグ・トップリーグ のチームをシードする		
3	クラブユース サッカー連盟 加入チーム 指導者・保護者	2019～2022	全チーム	ウェスフェアオフィサー 各チーム最低1名取得	指導者・保護者に積極的に 案内する		

↑現状分析での事項No.に対応。複数の事項にまたがって、一つの事業で対応することも可能です